

刊夕日一十月四



定価 一冊五錢 金五拾銭 郵費五銭
廣告料 五號十二字 行金五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

迷信より正信へ

眞 繼 雲 山

如何なる野蠻人にも、物のついた子供にも、それ相應の信仰といふものを持つてゐる。

おれは無神論者だ、無宗教だと平気で公言し得る人にも、それが非常の木石でない限り、何程かの信仰はある。床屋に行つて平然と眼のふちを剃らせたり、喉首に危険な剃刀をあてがはせて、好い氣もちで眠つてゐるといふのは床屋を信じてゐるのであり、水道の栓をひねつて、一息に湯を醫するといふのは、水中に毒なきを信じてゐるからである。その信ずるといふのが信仰の種である。

牛や馬には信するといふことがない代りに疑ふといふことがない。恐らくは本能的な直観があるだけであらう。牛には牛、馬には馬といふその程度に相應した本能的によつて、毒草が交つてをれば、それを刎ね退ける、そして滋養になる青草だけを巧みに食うてゆくそれは智識によつて毒否を思考し判断してゐるのではなくして、全く本能その物のはたらきに外ならぬ。信の上に生きるといふことが

ないから、本能以上に一歩も進歩する事實がない。それは何としても氣の毒なことだ。信仰の領分の少い人間ほど畜生に近いといふ話になる。

尤も信仰とは必ずしも正しいものとは限らない。一口に信仰といふうちには迷信もあれば、妄信もあり、邪信もある。大信といへば一概にえらいと拜むのが妄信であり、蛇や狸をまでも神として拜むのは邪信であり、神水や金米糖で病氣が治ると考へるのは迷信である。佛教とは、さうした迷妄を掃ふたところの正しき信仰をいふのである。

然らば迷信妄信、邪信は絶対に捨つべきかといふに必ずしもさうでない。冷かしも客のうちであるやうに迷信、邪信も信仰のうちであり、迷信は正信の前提である。米を獲るために藁は必要なくとも、先づ藁を育てねば、米は稔らぬやうに（これは藁幹論の所説である）迷信や邪信は正しき信仰に入るための初めての門である。迷信すらも持ち合はせないといふ無信の輩は木石にひとしく、現代語

では唯物論者といふ。釋尊もこれは縁なき衆生として一應、匙を投げられたのである。

迷信にもあれ正信にもあれ、人はその分に相應した信仰を各自に持つてゐるものである。この故に同一講堂に、同一の佛教講演を聞いても、その領解は自己の水準以上に出るものではなく、一様に感心し、拍手し悟つたと考ふることも、その領解はおの／＼異なるのである。經にはこれを『佛は一音を以つて、説法を演ずれども衆生は類に隨ふておの／＼解を得る』と説かれてある。

信仰とは、迷信より正信へとその水準を高めてゆくものでなくてはならぬ。それは恰も小學より大學へと進むにもひとしいが、たゞ學問と異なるところは、學問にあつては、大學に入らぬものは大學卒業の智識を得ること、先づ以て有り得ないが、佛教の信仰にあつては、十界と説き五十二段六十二見といふ風に無數の階段を説くといへども、それは一應の談議であつて、他力門には五乘齊入といひ智あるもの智なきものも、信の一念によつて即時に佛果に登ることが出来る。これを頓證菩提とも、即時往

生とも乃至、即身成佛ともいふので、法雨の百草に樹るが、所以であり、佛道の極則は茲にある。

謹告

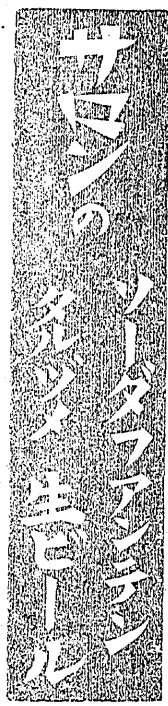
今般田町火災の際に類焼致し候爲め左記に於て一層の親切丁寧を旨として營業致す可く候間何卒御引立を賜り度御願ひ申し上げます。

◎假營業所

平町田丸新デパート内
根本時計店

電話番號變更

此度當店の電話番號左記の通り變更致しましたから御諒承下さい。
電話 三三七番
平驛前 阿部石炭商(用)
電話 二二七番
阿部政右衛門(宅)



平町新川端(釜屋新宅向)

内科

一般

醫學博士 難波 睦
電話 五〇二一番

時は春!

お寫し遊ばせ!

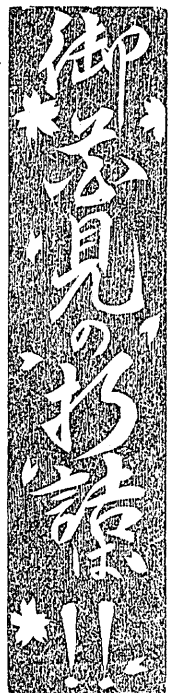
皆様の良い寫眞館

サクラ寫眞館

◎最新式電氣應用 晝夜撮影
平町田丸【驛前】

魚清食堂改築御披露

◇階上新築食堂は皆々様を御待らしてゐます。何卒御立寄下さい。例年の通り



最大 魚折詰 二十錢より
勉強 壽司折詰 二十錢より
本年の折箱は特に最新式の文化折箱を使用致します

せ印 魚清食堂折詰部

電話 六三三番

専門 産科 婦人科 花柳病科
◎入院應需

井坂醫院

平町田丸 電話 五五九番

開業御披露

過般の火災で弊店も類焼致しましたが一時凌ぎのバラツクが出来ましたので本日より開業する事になりました。何卒火災後の御同情と舊來の御愛顧にて倍舊の御最負御引立の程お願い致します。

四月一日 平町田丸

酒喜屋

女中數名至急入用 電話 一七一番

月曜言論

道路愛護の徴費

道路愛護の運動各方面に起る、道路愛護の精神はよしされど財政難に籍口し、窮迫せる地方人士の財囊を叩かして、改修費用迄取り取らんとする遺り方は少々あきたらずや、お役人のおだてにはウツカリ乗れぬと心得べし。

組合の業績立證

鑄銀を喰ひ潰し、平銀を失つた平町は、平庶民金庫を唯一の金融中心機關として頼るの外なし、今回山崎、諸橋兩氏の理事加入快諾は同金庫の業績進展を雄辯に物語つて餘りあり、此の上は信用組合本来の面目を發揮せしむべき様組合員相互の責任を自覺し大いに努めてやまざるべきなり。

熱誠に價す運動

昨日石城童話クラブ主催の子供大會開かる、童話に童謡踊りに、一千の児童は嬉々として喜びの半日を送つた、活動寫眞は實あり爆弾遊びは危しと、何んでも彼らでも爲すな遣るの一点張り、其の代價に意を注がずんば子供がイデケて仕舞ふ、童話クラブの人々が茲に見る處あつて清新な娯樂を子供の世界に提供せんと企て、此の精進は熱誠に價す、一父兄も又斯かる運動に關心を持つて、其の發展に寄與すべきなり。

咲き初むる 櫻下の下に 必死の熱技

忠魂祭武道合試

昨日の松ヶ岡公園忠魂祭は烈風に惱されたが日曜の爲め咲き初める櫻花を見んものと相當の人数あり祭式後行はれた武徳會支部の各種競技には郡下より集つた二百餘名が必死の熱技を演じ見る者の手に汗を握らしめた優勝者は左の如くである

△弓道(一等)湯本日野忠兵衛(二等)好間日座兵吾(三等)湯本岩村與四郎(四等)湯本鈴木豊治(五等)平鈴木勝明

△剣道(個人試合)一等浦山喜太郎、二等、澤田正幸三等、柏原英純、四等大井川元治(団体試合)一等澤渡青年團、二等夏井青年團

正副級長と各部幹事

平商業學校にては去る六日各級正副級長及各部員幹事の選挙を行つた事は既報の如くであるが本日左の如く任命された

△第一學年級長(甲組)中島勝 龜岡進一(乙組)相良豊吉 馬目健治

△第二學年(甲組)内海實 大高正己(乙組)齋藤一夫 岡田彦太郎

△第三學年(甲組)木幡八十

花時の臨時運轉

十六日から平町松ヶ岡公園の櫻花や博覽會を當込んで四月中は各種總會や大會の催しが多く平町は非常な混雑を見る模様なので平町では最も出入の多い十六七八の三日間近在よりのお客の爲め草野湯本間各線に一日四回の臨時列車を運轉する事になつた

農村負債整理の對策如何?

町村議員大會で協議

既報廿一日午前十時より平第三小學校に開催される郡下各町村議員大會にては左記事項に就いて協議をなすが午後一時よりは全國町村長會の福井主事が講演を行ひ三時閉會後直に松ヶ岡公園で園遊會を催す

正副級長

第一と第三

平第一小學校及第三小學校に於ける本年度各級正副級長は左記の如く本日決定した

金澤教諭歡迎

高等女學校にては本日午前十時新任教諭金澤コウ氏の

△第四學年(一組)清水重政 佐々木高滋(二組)千葉直彦 松本光男(三組)小野勝三 稻島正(四組)高階文三 小林清

△第五學年(一組)藤田榮一 坂本行藏(二組)柴田讓 大泉嘉平(三組)伊關太郎 關原定二

△第六學年(一組)志賀正義 志賀純一(二組)根本忠雄 岩崎久治郎(三組)山崎道雄 名尾卓朗

△高等科第一學年(一組)松崎康利 愛澤麗山(二組)青沼三郎 吉田政吉

△第二學年(一組)寺門友巳 鹿島幹司(二組)齊藤武勇 佐藤尚吉郎

△第三學年(一組)寺門武彦 井上明(女)永島佳子 野澤登枝

△第四學年(男)松崎惣兵衛 今田實(女)白土貞子 川崎ハツ子

△第五學年(男)諸橋重彌 平野井珪藏(女)高田邦子 丹野千鶴

△第六學年(男)田中榮太郎 白土弘(女)鈴木ひで 林フク子

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△尋常科第三學年(一組)三井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

△第一小學校 井貞一 鈴木善彌(二組)三松本真平 若松壽彦(三組)龜山正太郎 飯島登司

時より同會倉庫にて在米の共同販賣を行ひ五等五十六俵、等外百六十俵、計二百十六俵を入札に付した結果五等建値八圓二錢を以つて全部平町の青木要治郎氏に落札した

思想善導 佛教講演

京都から名僧 郡下百餘名の僧侶よりなる石城佛教會では思想善導の爲め廿日午後一時より平第三小學校に講演會を開催するが講師として京都より名僧を招聘すべく計劃中で翌五月一日には兒童大會を催すと

金成翁逝く

平町鎌田町醫師金成忠義氏の嚴父直藏翁は永らく病氣中の處十日午前十時遂に長逝した葬儀は十二日午後二時出棺神谷村白鹿山弘源寺に於て佛式に依り營む

藤田校 卒業生

平町藤田女學校にては本日卒業式を執行したが卒業生は左記百十八名である(○は成績優良◎は精勵受賞×は校務精勵)

本校本科 猪狩セキ 石成サキ 渡邊タマ子 上遠野トメヨ 吉田カネ

○田部君子 高木正

○中村貞子 生田目幸子 ◎薄葉マサ子 ◎柳井ヨネ ◎松本初 松本サダ子 松本淑子 小林ちよの ◎阿部常 新井通子 佐藤晴子 ◎齊藤久美子 ◎澤トメ 坂内信子 北村園子 鈴木しげの 宮島ノブ 志賀ハツ子 江川芳枝 鈴木サト子 本校裁縫専修科 伊東鈴子 猪狩千代 ◎猪狩テ

ル 新妻芳子 新妻ツネ 豊田光子 ◎東條イン 大瀧チヨ 大場イヨ ◎小野ハル ◎小宅かね 小山トシ子 鵜塚トミ子 ◎金賀恒子 高萩美枝 高木愛子 高木静子 ◎海野トク 馬目ハル子 ◎馬目カノ 松本タケ

松崎キクエ ◎近藤キク 安藤タマキ 佐藤フク 佐藤チヨノ 齊藤ヨネ 四家トク 鈴木静子 根本絹子

師範科 若松篤子 ×加藤フデ子 吉野春子 松下ちよ子 佐川キミ ◎酒井ヨネ 緑川ツギ ◎平子ユミ ◎鈴木正子 ◎鈴木歌子

専攻科 小川カツヨ ◎和田シヅ子 渡部トミ ×渡部千代 ◎吉田マサ子 ◎高木アサノ 黒澤テル子 遠藤キヨ子 ◎安島ツヤ子 佐川千代子 北原キミ 平本ノブ子 鈴木節子

湯本分校裁縫専修科 ×大井アキ 大平フヨ子 ◎渡邊春子 野木テル 鈴木美恵子

花の盛りに

縣社の祭り

博覽會と相呼應して

全町賑ひの渦を巻く

材木町青年が神輿奉仕

平町縣社子鏡倉神社は櫻花の最も見頃である十七、十八の兩日祭禮執行の管で

當番區 たる一丁目、四丁目、長橋、古鍛冶、南町、立町、鎌田、仲間町、堤の内の九ヶ所委員は折柄の博覽會と相呼應し全町舉げてお祭氣分を横溢せしめんと目論見先月來日夜準備に忙殺されて居るが十七日の宵祭には午前十時縣知事代理が

供進使として參向、全町の區長社總代、世話人等參列大祭儀を執行し翌十八日は午前九時を期して材木町青年分團員七十名の奉仕に依つて神輿神前を出發各青年分團旗を先登に稚兒の可憐なる供奉等に依り沿道の

人氣を呼んで觀衆の黒山を築かしめ一方境内には宵祭の晩から翌日にかけて水戸丸市の大神樂、活動寫眞等の賑やかな餘興演ぜられて數百發の煙火は更に活況を添ふべく此の日は官公署、學校、銀行會社、

大商店等何れも休業して祝意を表する事になつて居る因に祭禮諸係員氏名左記の如くである

- (神輿渡御係) 岡田千藏 齊藤寅吉 佐藤榮吉 川角兼吉 大塚武雄 鈴木惣五郎
- (接待並稚兒係) 岡田長太郎 佐川泰榮 深谷啓次郎 松本龜吉 小原喜八郎 (青年團係) 猪狩庄平 西山秋美 大樂近松
- (備設裝飾並餘興係) 小野園次郎 松崎佐平 木澤常松 金成國雅 神谷亥三雄 谷川清助
- (供進使係) 齊藤繁藏 比佐信太郎
- (會計係) 山崎與三郎 猪狩庄平
- (賄並配給係) 吉田鎮政 關内半平 高田清一郎 芹澤嘉彦 松本愛三
- (警備係) 坂本隆藏 荒川殘次郎 阿部唯次郎 川角兼吉

東北一の プール新設

磐炭健康保課で

石城郡内郷村磐城炭礦會社健康保險課では水泳部を新設する事になり専用プールの設置を計劃中であつたが此程工費一萬圓を以つて高坂グラウンド北方高所に幅三十米長さ五十米東北一の完備せるプールを起工する事になつた大体六月廿日頃竣

豊間青年が博覽會見物

石城郡豊間村青年團では十六日午前九時より同村小學

校に總會を開催するが午後には平町に至り開會中の博覽會並に松ヶ岡公園の櫻を見物する筈である

命の綱で

命を落す

石城郡小名濱町本町漁夫作山勇吉(三)は九日午後五時頃同町中坪の立花唯七所有船共榮丸に乗組四十哩の沖合に出漁中激浪の爲め錨綱が同人の足にからまり倒れた際頭部を甲板に強打し直ちに手當を加へたが十日午

木炭火を發す

釜上した新品で自然發火らしと

平町材木町雜貨商杉並甚藏方では最近買ひ込んだ木炭を物置に積み重ねて置いた處今曉一時半頃發火し折柄の烈風に煽られ大事に至らんとしたのを物音に目覺めた家人が発見漸く消し止めたが發火の原因は最近釜上げしたばかりの木炭であつた爲め充分冷え切らぬものがあり自然發火したもらしいと

入學記念に

兩傘百本

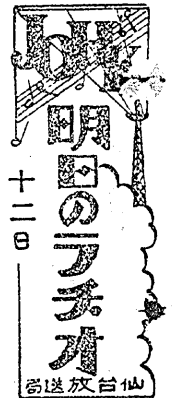
平町城山青沼鋒太郎氏は本日平第一小學校へ令孫康裕君の入學記念として兩傘百本を寄贈した

子宮筋腫も 妊娠はする

子宮筋腫の患者は絶對妊娠せずとの理論が醫學上の通説となつて居た處昨年福岡病院にて子宮筋腫の妊娠者があり此の理論がぐらついた處十日平町共濟病院で手術した平町田町某の妻ヤイ(三)も子宮筋腫で四ヶ月の身重となつて居たもの、由で該患者の妊娠は有り得る事を裏書した

落盤で即死

石城郡湯本町入山炭礦會社採炭夫八代才次郎(三)は昨日午後二時頃第五坑内斜坑にて作業中突然四尺四方の落盤に襲はれて其場に即死したのを四時頃同僚が発



明日のラヂオ

- 今晚の部
- 後六、〇〇 子供の時間
 - お話 大隈重信侯「市島謙吉」
 - 後七、四五 「故大隈侯國民敬慕會式典追慕の辭」
 - 日比谷公會堂より中繼
 - 若槻禮次郎 床次竹二郎 徳富猪一郎 大隈重信侯の夕前五時絶命した
- 明日の部
- 後八、四五 ラヂオドラマ 「大隈重信」丸山定夫外
 - 後九、三一 奉天より
 - 後九、四〇 全國ニュース
 - 氣象通報 番組豫告
 - 前九、一〇 料理献立 朝倉長吉
 - 前一〇、三〇 家庭講座 「アメリカに於ける美容
- 界の二潮流」長谷しげ子 府在原町新交響樂團練習所より中繼
- 後二、〇〇 家庭大學講座 「さむる婦人」文學博士椎尾辨匡
 - 後五、三五 林業講座 「問伐に就て」仙臺營林署長 赤林實隆
 - 後六、〇〇 子供の時間 「恐るべき交通事故」清水源太郎
 - 後七、三〇 放送舞臺劇 東京明治座より中繼 河合武雄喜 多村綠郎外
 - 後九、〇〇 俚諺 北海道 帶廣町の人々
 - 後九、三一 奉天より

裁判所便り

△石城郡高久村大字下山口字鬼渡二十一番地自動車運轉手鈴木庄平(三)は去月一月午後三時頃トラック七五八號を運轉茨城縣西茨城郡福原地内を疾走中前方より自轉車に乗つて來た安達濱一郎と衝突し右肋骨其他頭部に全治四週間を要する打撲傷を業務上過失傷害として罰金四十圓

△石城郡湯本町大字湯本字三國二百四十八番地古物商平子三郎(三)は昨年十月頃より十二月頃迄屑書店舖に於て椎名清永より窃盜した銅線其他を買受正規の帳簿に記入せず古物商取締違反として罰三十圓本日平區裁判所に於て各々略式命令を以つて處分さる

父直藏儀永らく病氣靜療中の處養生相不叶四月十日午前十時死去致し候間生前辱知諸賢に對し深甚なる御友誼を深謝し併せて謹告仕候也

追つて明十二日午後二時出棺村白鹿山弘源寺に於て佛式埋葬相營申候

昭和七年四月十一日

平町字鎌田町 男 金成忠義

親戚總代 松本代藏 箱崎爲次郎 金成保吉 諸橋國松 猪狩喜惣平 西原幸次郎 柏原千藏 岡田千藏

友人總代

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

〔第廿四席〕

神影流の達人秋山要介

(24)

散々に苦しめて

秋山要介は一刀を引付けて松平出羽守侯の家來と申した其實水戸の家臣に向ひ要「どういふ御用か、先づ拙者の察するに各には大望があるナ」

○「イエ大望といふ程の事でもございませぬが、先生を見掛けて是非共願ひ申す事がございまして」

要「承知いたした、敵は何者か、三面六臂の鬼神なりとも恐れる處はない、拙者が助勢をいたす以上は、必ず御兩所に本懐を遂げさせる」

と云はれて二人は顔を見合した、敵討の助太刀を頼む譯では無い、と云つてお前さんが井伊家へ出入をするかどうかを探るためにつけてゐたとも云へず

○「實は先生貴下の御門下となつて神影流の劍術の御教授を受けたく存じ居ります」
要「心得た、拙者について劍道を學び藝道上達いたした後は敵を討つ所存であらう、シテその敵は何人か」
○「イエ敵討の大望ある者ではございませぬ」
要「ハ、ア申さぬかな」



大望を抱き居る者はそれほどの用意がなければなるまい、又改めて聞く折もござらう、それまでは承るまい然し拙者の存じ居るだけの事は御指南を致す、先づ出精いたして茲兩三年修行致

すがよい、シテ各々の姓名は
○「手前事は森孫太夫と申します、又此處に居るは寺問惣平」
要「左様か然らばこれにて師弟の契約をいたすであらう」
恚う申して二人に鬘を與

要「それでは森、何ぞ唄へ唄うことがならずば踊れ」
孫「これは恐れ入りましたどうぞ御勘辨下さいませ」
要「野暮な奴だナ、それで俺が唄つて聞かせる、後は學の爲に能く聞いて置け」
茲で要介は詩を吟じて其後刀を抜いて踊り二人の頭

へ女中を呼び藝者を注文した、間もなく今晩はと左棲を取つて美しい處が二人入つて來た
要「さア、酌をしろく、コレ寺島森藝妓が参つたが二百疋づつ祝儀を遣はせ」
二人はいよ／＼驚いた、否とも云へず二歩づつ懐中を痛めた、要介は愉快々々と大喜び、藝妓に三味線を取らせ
要「コレ寺島、貴様は着ばかり荒してゐるが、何ぞ唄へ」
物「遊藝は無調法にございませぬ」

へ「チョイ／＼と尖刀を當てるが森も寺島も首を縮めて「どうぞ先生劍舞はお止まり下さい」と泣き聲を出した
要「あ、愉快々々サア／＼此邊で納盃として引揚げることにするナ、コレ女中土産を持つて参るから其用意をいたせ藝妓衆大きに今日は御苦勞であつた又参るぞ」
要「どうぞ先生お近い内にお出下さいませお待申して居りますよ」
要介は藝妓や女中に送られて賣茶を出た、森に寺島は折を持つて供をする、秋山は芝口の初音屋といふ駕籠屋に來て駕籠を雇ひそれへ乗り

か「遅れたと見えましてお在になりませぬ」
要「奴め逃げ居つたナ、あれ程苦しめて置けばもう俺を尾ふるやうな事もあるまい、さア若衆急いでくれ」
か「は飛ぶやうに根岸に入つて來る」
要「其處で宜しい、履物を直せ」
か「から出た要介は屋根に／＼してあつた折を取り要「イヤ睡れたであらうこれは輕小ではあるが急がした其骨折だ」
か「有難う存じます、先生がお歸りでございます」
恚ういふと門人が出て來た

要「其折はこの駕籠の屋根にく／＼つて置け、それから森も寺島も俺と一緒に根岸の道場へ参れ、今晚より稽古いたして遣はす、俺は酔ふと藝に機が付き従つて打を入れると激しいぞ、竹刀をボカリ當つたが最後氣絶をする者もある、コレ／＼寺島この駕籠を拂へ、それに若い者へ二朱づつ祝儀を遣はせ」
惣「長まりましたございませぬ、こんな入費のかゝる奴に出會つたことが無い」
愚痴を言ひながら駕代と酒代を出した、要介はかごに捲ながら根岸を指して戻る、ウト／＼睡りながら御成街道まで來た、ポーンとかご昇が息杖を入れたがこれで目をさまし
要「尾いて來た門人は居る

安イハ 博 盛 堂

夫人ト臺樞靈
葬其花造
一具他博
安イハ

番五三五呼電路小搦搦平

貸切の●●●
御用命は？
獅子吼(四四九)ノ勢デ
眞先ニ……(マツサキ)
三九二タクシーへ!!!

花見折詰
仕出し
錦水
電話四五四

専門 内科一般
川井内科診療所
電話一八一番
女醫學士 川井重之
女醫學士 川井安子

鹽豚販賣開始
三三三三屋
平田町